

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第9号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下URL）にも随時公開しています。
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R2 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R2 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.2	23.6	-1.6	29.2	28.1	-1.1	22.1	20.5	-1.6	81.6	16.5	20	18.8	18.1	96
	2	25.9			30.1			22.8			68.8			22.8		
	3	26.6			30.9			23.3			58.3			25.5		
	4	27.1			31.7			23.7			48.5			28.7		
	5	27.5			32.4			23.9			39.2			32.9		
	6	27.8			32.9			24.1			36.3			42.8		

- 1) 7月1半旬は、平均気温は平年に比べて1.6°Cほど低く推移した。
- 2) 7月6日～7日かけての豪雨（355mm）があった。

2. 情報田生育概況（調査日：7月8日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 6/14移植 武雄市橋町	本年値	40.8	215	8.1	37.1	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年並み、茎数は平年より少ない。 主幹出葉数は、平年並み。 葉色は平年に比べ淡い。 ※スクミリンゴガイによる被害を確認
	平年値	40.5	246	8.1	40.3	
	平年比	101	87	0.0	-3.2	
さがびより 6/20移植 武雄市橋町	本年値	30.8	137	7.0	37.8	<ul style="list-style-type: none"> 草丈、茎数ともに平年並み。 主幹出葉数は平年より0.2枚多い。 葉色は平年にくらべやや濃い。 ※移植15日後の落水実施済み
	平年値	30.8	138	6.8	37.0	
	平年比	100	99	+0.2	+0.8	

※夢しずくの平年値はH21～R1の平均値、耕種概要は稲作情報No8参照
※さがびよりの平年値はH21～R1の平均値。

(耕種概要)

品 種	年次	苗質		移植日 (月日)	栽植密度 (株/m ²)	備考
		苗丈	葉令			
さがびより	本年値	13.2	3.3	6月20日	16.4	前作 大麦
	平年値	14.0	3.3	6月21日	16.0	—

3. 武雄・杵島管内の生育状況（7月8日時点）

- 1) セタコシヒカリ：現在、穂揃期～乳熟期となっている。
本年は早いところで6月26日出穂し、出穂盛期は6月28日～30日となった。
なお、情報田の出穂期は6月29日となった。 平年に比べ1日早く、前年に比べ3日遅い。
- 2) 夢しずく（山間早植え）：5月下旬移植夢しずくで穂首分化期～幼穂形成始期である。
- 3) 夢しずく（普通期）：現在、分けつ盛期である。移植後の日照不足大雨の影響を受けて、全般的に軟弱徒長ぎみで茎数は少ない生育である。
- 4) さがびより：現在、分けつ盛期である。移植盛期は6月20日～23日頃となった。
- 5) その他特機事項
 - ・移植後以降の周期的な降雨により、草丈は伸長して軟弱徒長ぎみになっている。また、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）による食害や除草剤の薬害、流れ葉の発生が散見される。
 - ・麦わら（特に小麦）及び玉ねぎ残渣によるわき（ガス）害が確認され、落水処理による対応が実施されている。
 - ・除草剤散布後の豪雨により処理効果が劣るなどしたため、雑草の発生が早い段階で確認されている。特にホタルイやコナギなどの問い合わせが増えた。
 - ・7月6日～7日にかけての大雨により、長いところで2日程度冠水した地域がある。

3. 今後の管理

1) セタコシヒカリ

(1) 水管理

「コシヒカリ」は、穂揃期～乳熟期です。

出穂期後の水管理は、根への酸素供給を図るためにも常時湛水するのではなく間断灌水（潤土管理）を行いましょう。特に、7月に入り度重なる大雨により、土壌が柔らかくなり株の支持力が弱くなっている圃場が散見されます。

土壌内に酸素を供給し根の活力維持と土壌の支持力を高めるために1度2日程度落水した後、足跡着水管理（水田について足跡に水がたまった状態。）につとめて田面を固めましょう。また、連続降雨の場合落水状態で管理し「中干し」で固めた土壌が柔らかく戻らないようにしましょう。

ただし、好天が続く場合は、玄米の品質低下を避けるため土壌表面を白乾までしないように。必ず走水を行いましょう。

また、①台風等が接近前～通過後まで②気温が高く強風が吹く日が続く場合は、深水管理を行いましょう。収穫前の早期落水は品質低下を招くため、収穫5日前までは通水を行う。



土壌表面が白乾した状態で、強風にあい、稲の葉や籾に裂傷がみられた。
また、籾が黒く変色している。
(過去の事例より)

2) 山間早植え水稻（主に夢しずく）

- ・水管理は間断灌水を実施する。今後、生育ステージ（品種によって異なる）は幼穂形成始期をむかえる。長雨曇天の影響を受けて全般的に草丈は高く葉色は濃い。
- ・生育ステージは平年並み～やや遅い。7月上中旬頃に幼穂形成期を迎えるため、下記の表を参照して穂肥を施用する。ただし、本年は山間早植え水稻において「いもち病」が確認されているので、発生状況等によつては穂肥は減ずる。（進展型病斑を確認した場合は、穂肥は控え臨機防除を行う）

○夢しずくの穂肥診断指標（穂肥の資材は地域栽培暦を参照する）

草丈 cm 幼穂形成始期時	葉 色			穂肥施用時期		
	群 落	SPAD	出穂前	幼穂長	穂肥施用量 (N成分:kg/10a)	
73cm 以下	淡い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1mm	2.0kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	2mm	1.5kg/10a
	濃い	3.8 以上	39 以上	穂肥は施用しない		
73cm ～ 79cm	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	2mm	1.0kg/10a
	濃い	3.6 以上	39 以上	穂肥は施用しない		
80cm 以上	穂肥は施用しない					

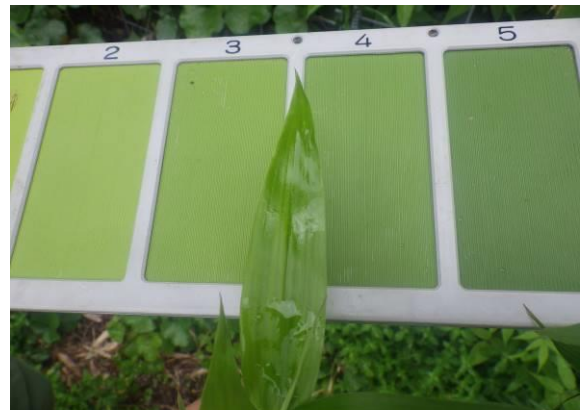
※ 草丈は幼穂の伸長程度より幼穂形成始期（幼穂長1mm）を基点に、前後1日当たり1cm増減する。

※ 止葉が抽出し終わった後は施用しない。

【穂肥診断の方法】

- ① 幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ② 葉色（群落・SPAD値）を測る。
- ③ 上記①②の測定値を診断指標にあてはめて施用量を確認する。
- ④ 施用量が確認できたら、記載された施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。

※穂肥施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下（3.5以下）」になってからである。



葉色板がなくとも、山笹の葉色にならないと穂肥施用はできない

3) 普通期水稻

- ・全般的に麦わら等の施用によるガス発生、連続降雨による流れ葉、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の食害により分けつ抑制が散見される。本年は暖冬の影響を受け、スクミリンゴガイの発生が多いことと冠水被害によりクリーク水が圃場へ流入し深水状態が続いていることにより被害が拡大しているため、用排水の管理をきめ細かく実施するとともに、食害が多い場合はメタアルデヒド剤等で防除しましょう。
- ・水管理は、6月下旬の連続降雨により常時湛水した圃場ではガス（湧き）の発生が目立っています。前作の残さや、麦わらが多い水田では、今後ガス（湧き）と還元（酸素不足）が進むことが予想されます。ガス（湧き）がみられれば風のない穏やかな日に時々落水しましょう。（移植15日、25日の落水処理）特に、足を踏み入れずに自然に気泡が出るようであれば直ちに落水する。（下記表参照）

表 ガス（湧き）発生程度及び対策

湧きの程度	様相とガス程度水稻への影響	水稻への影響	ガス対策（7月上旬以降）
稀	足を踏み込んでも気泡なし	なし	必要なし
少	足を踏み込むとわずかに気泡が見られる	なし	必要なし
中	足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	落水後に用水更新
多	足を踏み込むと盛んに気泡を発生	根張り不良	落水後に用水更新を繰り返す
甚	晴天時自然に気泡発生する（ばちばちと音が聞こえる。）水田歩くと著しく気泡発生。	根伸長阻害、黄化	中耕と用水更新を繰り返す 回復後には、間断灌水（本格的夜干）

・雑草防除は、降雨により効果の振れが大いため、圃場ごとの確認を行い、残草があれば処理時期を逸しないように行う。本年は、代掻き作業後の降雨により、田植え作業が計画より遅れて実施している圃場も多い。そのため、期間があいたため、雑草が早めに発生し、除草剤の効果が十分発揮できていない圃場も散見される。特に「ホタルイ」の発生を確認する。その場合、中後期除草剤の対応も視野にいれる。

・移植後の長雨曇天の影響を受けて、生育は全般的に茎数不足で推移している。しかし、中干し作業は遅くとも移植後35日～40日まで移行する。

中干しの草丈の目安は、「夢しずく」が45～55cm、「ヒノヒカリ」は40～50cmの間が目安である。（茎数の多少はあるが、この時期以降の分けつ茎は穂にならないため。）
いもち病が多発している圃場では、強い中干しは避けるようにする。

（参考）中干し作業の効果と時期

（1）中干しの効果

- 1) 無効分けつの発生防止→1茎の充実、茎を太く揃える
- 2) 下位節間の伸長防止 →稈長を長くしない、倒伏防止
- 3) 窒素の制限 →過剰繁茂防止、草型を整える
- 4) 有害物質の除去 →根の活力低下防止
- 5) 土壤に酸素供給 →根の健全化
- 6) 土壤透水性増加 →根の量の増加
- 7) 株支持力の増加 →倒伏防止
- 8) 圃場管理が容易 →田圃に入っても歩いてもきつくない

（2）中干し時期は

→総葉数の7割～8割の葉が出た時の間、10葉期、田植後35日を中心に
止葉までの葉数の69%～77%の葉が出た時期が最高の時期。ほぼ有効分けつ決定期（株当り小さい分けつまで20本）～穂首分化期（穂の基が茎の中で出来る時）頃となる。
時期が遅いと根の活力低下を生じヤセ米の原因ともなります。

（3）中干しの期間と程度（強弱）は？

中干し期間は5～7日天候や土壤の種類、漏水の程度などによって変わってくる。
圃場の硬さの目安は軽く足跡が付く程度で、小さなヒビが入るくらいです。
つまり「歩いて足跡が付くが抵抗なく歩ける硬さ」が理想。
しかし生育量や葉色によっても加減が必要、本年は全般的に茎数が少ないため、手のひらが縦にはいるようなヒビ（強い中干し）は、強い断根を伴い稲にとってダメージが大きくなる。

- ・いもち病は、6月上旬までの移植のものまで、病斑を確認している。
特に、風により茎葉の損傷や稲体の活力低下なども加わっているため、葉いもち発生に注意して観察し進展型病斑が認められれば臨機防除を実施する。

《参考》夢しずくの生育診断

(1) 適正な草丈と葉色

出穂期	8/10	8/15	8/20	草丈 cm	葉色	
					群落	葉緑素計
出穂前 35 日	7/5	7/10	7/15	50 以下		
出穂前 25 日	7/15	7/20	7/25	65 以下	3.8 以下	37-39
幼穂形成始期	7/20	7/25	7/30	68 - 73	3.5 以下	36-38
幼穂 10-15mm 頃	7/25	8/1	8/5	80 以下		

(2) 幼穂の伸長による把握

幼穂形成始期(幼穂長 1 ヲ) 出穂前 20-22 日

穂肥期 (幼穂長 2 ヲ) 出穂前 19-17 日

減数分裂初期(幼穂長 10-15 ヲ) 出穂前 15-14 日

減数分裂盛期(幼穂長 30-100 ヲ) 出穂前 13-10 日

*夢しずくの幼穂伸長は初期は極めて遅い。したがって、幼穂形成から出穂期までの期間もやや短い傾向がある。(幼穂 3mm 以上になると急激に伸長する)

(3) 出穂前 30 日 (移植後約 35 ~ 38 日頃) の圃場の理想的状況

出穂前 30 日立毛観察のポイント

草丈 60cm 以下で株当たり茎数 20 本以上 25 本以下

→この時の立毛観察: 圃場の約 30m 先まで株間の田面が見える状況

(3) 病害虫の発生状況

- ・海外飛来成虫は、梅雨前線による飛来を現地でも確認している。
現時点での防除は必要ありませんが、箱施用剤未使用圃場でコブノメイガの被害が著しい場合、臨機防除の対応も視野に入れる。

1) いもち病

【山間早期水稲】

- ・葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底するとともに、発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも防除を行う。

【普通期水稲】

- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- ・葉いもちの発生に注意して観察し、進展型病斑が認められれば早急に臨機防除を実施する。
その場合、オリブライト粒剤等を使用する(ただし農薬適用は厳守する)
- ・窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行なう。

2) ウンカ類

- ・ライトトラップ等における海外飛来性害虫であるセジロウンカ等の飛来は、これまでの飛来状況として、6月10-15日頃、6月25-28日頃、7月5-7日頃を中心にセジロウンカとともにトビイロウンカが飛来したと考えられる。**(ただし、梅雨明けしておりませんので、今後の飛来状況によって主な飛来波は変わります)**。セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガの誘殺状況については別紙参照。

最新データは、佐賀県農業技術防除センター及び長崎県病害虫防除所HIPを参照する。

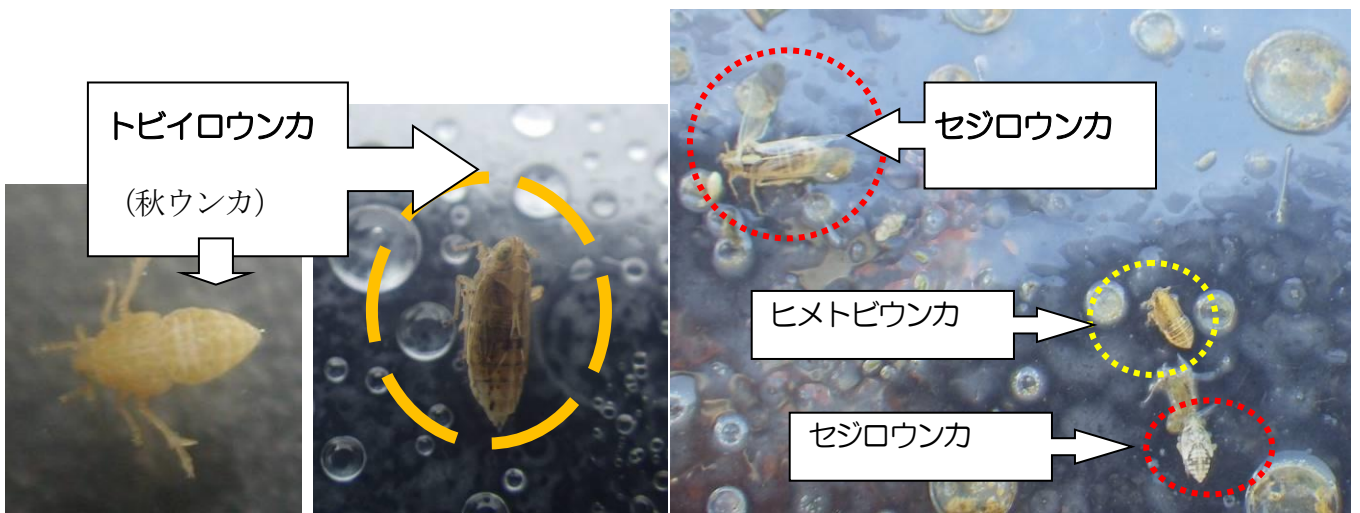
- ・今後の飛来状況や圃場の発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、ひきつづき圃場発生状況に注意してください。

杵島管内におけるウンカ類の払い落とし調査(R2)

調査日	セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
8月9日							
5月23日移植	0	2	0	1	0	2	夢しずく(北方町) ※トリフルメゾピリム
6月13日移植	0	2	0	0	0	1	夢しずく(江北町) ※トリフルメゾピリム(播種同時)
6月14旬移植	0	5	0	2	0	0	夢しずく情報田 ※トリフルメゾピリム
6月20日移植	0	2	0	0	0	0	さがびより情報田 ※トリフルメゾピリム

※セジロウンカ及びトビイロウンカの成虫はすべて長翅型であり、飛来虫と考えられる。

- ・トリフルメゾピリム箱剤を使用している圃場では、7/8-9巡回調査ではセジロウンカの産卵や吸汁跡、幼虫の発生は確認できていない。なお、セジロウンカの要防除水準は1株あたり成虫が5頭以上いる時となっている。



ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	○ : 真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	○ : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	○ : 斜め後ろ

セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガの誘殺状況

	セジロウンカ						トビイロウンカ						コブノメイガ			
	長崎県			佐賀県			長崎県			佐賀県			長崎県	佐賀県		
	諫早	佐世保	佐賀市	佐賀市	嬉野	諫早	佐世保	佐賀市	佐賀市	嬉野	諫早	佐賀市	白石	武雄		
	ライト	ネット	ライト	ネット	ライト	ライト	ネット	ライト	ネット	ライト	ライト	トラップ	トラップ	トラップ	トラップ	
6/1	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	-		
6/2	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	-	0	0
6/3	3	0		0	0	2	0	0		0	0	0	0	-		
6/4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
6/5	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
6/7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
6/8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	-		
6/9	0	0	0	0	欠測	0	0	0	0	0	欠測	0	1	0	0	0
6/10	0	0	0	3	欠測	1	0	0	0	0	欠測	0	2	0		
6/11	20	0	0	2	欠測	17	1	0	0	0	欠測	11	52	0		
6/12	30	0	0	14	欠測	6	2	0	0	0	欠測	0	13	0	0	0
6/13	1	0	0	6	欠測	2	0	0	0	0	欠測	0	19	0		
6/14	12	1	0	1	欠測	1	1	0	0	0	欠測	0	13	0		
6/15	16	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	41	1		
6/16	1	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	32	0	0	7
6/17	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	31	1		
6/18	2	0	40	6	0	3	0	0	0	0	0	0	16	1		
6/19	0	0	61	3	0	2	0	0	0	0	0	0	24	0	0	5
6/20	0	1	65	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	0		
6/21	1	0	19	0	0	1	0	0	0	0	0	0	14	2		
6/22	3	1	6	0	1	0	0	0	1	0	0	0	12	0		
6/23	2	1	4	1	0	1	0	0	0	0	0		14	1	0	6
6/24	0	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0		1	1		
6/25	0	1	8	2	0	6	0	0	3	1	0	2	14	0		
6/26	31	1	4	0	1	12	0	0	0	0	0	6	5	0		
6/27	18	1	3	2	1	149	6	0	0	0	0	70	7	2	0	2
6/28	7	0	0	0	0	14	1	1	0	0	0	7	25	2		
6/29	5	6	1	9	欠測	1	0	1	0	0	欠測	0	21	0		
6/30	2	1	0	5	1	3	4	0	0	0	0	11	32	0	0	2
7/1	2	0		0	2	0	1	0		0	0	3	11	0		
7/2	2	0		0	1	9	0	0		0	0	16	1	0		
7/3	49	0		0	0	57	11	0		0	0	20	2	0	0	0
7/4	21	0			0	0	8	0			0	3	2	0		
7/5	88	2			0	17	72	1			0	3	2	0		
7/6	52	25			欠測	107	10	19			欠測	358	0			

3) コブノメイガ

- ・葉色が濃い圃場においてコブノメイガの食害が散見される。
- ・コブノメイガの防除適期は、発蛾最盛期の7日後（幼虫ふ化揃い期）である。
被害葉が多くみられる圃場では、蛾の発生状況に応じて臨機防除を行う。

4. 大雨、台風対策

○大雨対策は別紙参照。

○台風対策は、水稻の生育ステージによって異なりますが、本田移植後（活着期以降）は、強風による水稻の茎葉の水分収奪や損傷を防止するため、必ず深水管理を行いましょ。併せて、台風通過後は、新しい水と入れ替え、こまめな間断灌水や浅水管理を行って根の機能回復に努めるようにしてください。